

令和7年度 外国人留学生選抜 経済経営学部 小論文
出題の意図と解答の傾向

第1問

【出題意図】

第1問の課題文は、佐藤一磨氏「家事分担 58:42 の法則」経済学が導き出した妻の幸福度が最大になる「黄金の比率」（プレジデントウーマン 2022年1月27日付コラム）から出題した。出題にあたって、難易度の高いと考えられる語彙、漢字については、一部、改変を行ったが、概ね元の記事をそのまま出題している。このコラムには、佐藤氏が実施した「働く妻の家事育児、幸福度」などに関する調査結果を示す多くの図表が用いられている。出題においては、図表と本文中の説明を正しく読み取る力、そして、読み取った内容を元に、自身の考えを根拠をもって説明（記述）できる能力を問うている。

【解答の傾向】

問1 語彙理解

本文中に用いられていた「シミュレーション」「ギャップ」などカタカナで表記された語句の言い換え表現を問うた。

概ね、正しく漢語表現とカタカナ表現との組み合わせについて理解ができていた。

問2 文法理解

「にもかかわらず」と言った、複文（述語を2つ以上持つ文）の形成に必要な表現の正しい使い方を選ぶ問題を出題している。当該の表現を正しく理解できているかどうかを複数の例文を元に正誤選択を求める形式で問うている。

本問題においても、概ね正しく「にもかかわらず」が理解できていたと言えるが、文化的背景に関わる例文などにおいて、一部、不正解が見られた。

問3 例文作成、語彙説明

本文中で用いられた「丸投げすれば」と言った表現を用いた例文作成、またその例文を用いた「丸投げする」の意味に関する説明を求めた。

「丸投げする」を用い、概ね正しく例文を作成できていたが、一部、文を複雑にしようとするあまり、非文（文法的に正しくない）を作成してしまっている例文などがあり、不正解としている。また例文の説明にあたって、「丸投げする人」の視点で説明するのか、「丸投げされる人」の視点で説明するのかを混同している説明があり、こちらも不正解としている。

問4 本文内容の理解

本文の内容を正しく理解できているかどうかを正誤選択形式で問うている。

概ね本文内容を理解できていることがうかがえたが、夫と妻、いずれを対象にした数値なのかといった理解に一部間違いが見られた。

問5 論述

本文のテーマである夫婦の間での家事や育児の分担に関わる自身の考えを適切な例を用いて主張できるかどうかを問うた。

多くの解答が近年の社会変化に関わる動向について触れていた点については評価できるが、それも元にした自身の考えについての記述が、それほど見られなかった。また一部、本文で挙げられていた説明などをそのまま転記している回答もあり、こちらは自身の考えが見られなかったため、減点している。

第2問

【出題意図】

国勢調査、または国立社会保障・人口問題研究所より公表したデータ・資料に基づく出題である。データを正確に読み取る力に加え、一つ一つの数字が意味するものを本質的に理解する能力、そして、自身の考えを適切な根拠に基づいて述べる論理性や文章構成力を問う。

【解答の傾向】

問1 正誤選択

問1は、3つの資料の内容に基づく選択肢について、その正誤を判定する問題である。資料の正しい読み取りとその理解度を問う。

概ね、選択肢の正誤判断はできていた。

問2 論述

問2は、高齢化・少子化に関する用語を理解し、表やグラフから、日本の人口動向と今後の動きを述べる論述問題である。

資料の正確な読み取りに加え、少子高齢化社会への影響について考察することで、社会課題に対する理解力や発想力を問う。

日本人口の推移（総人口・年少人口・生産年齢人口・高齢人口）は概ね指摘することができていた。また、それぞれの人口構成の変化については、労働力不足といった社会問題と関連させて述べたものが多かった。加えて、日本社会の少子高齢化が社会保障・外国人労働者の導入と絡めた考察も見られ、全体的に質の高い回答が多かった。